

## L I N E が提供する情報モラル教育教材「SNSノート（情報モラル編）」について

愛媛県立三島高等学校

谷脇 翔

### 1 はじめに

2016年11月に愛媛大学で開催された「情報モラル教育指導者セミナー」に参加した際、L I N E株式会社と静岡大学が共同で開発した情報モラル教材『「楽しいコミュニケーション」を考えよう』を使いながらワークショップ型の講義を受けたことがある。カード教材を使い、参加している先生方と話しながら、コミュニケーションの在り方やネットの特性について理解を深めることができ、アクティブな活動を楽しみながら講義を受けられたことが印象に残っている。昨年9月にL I N E株式会社は、全国の児童・生徒たちが発達段階に応じて体系的に情報モラルを学習できる「SNSノート（情報モラル編）」を開発し、ホームページ上で無償で提供している。この教材の中には、3年前に私が受けた講義の内容が取り入れられており、タイミングが合えば授業で実践してみたいと考えていた。そこで今年度は「SNSノート（情報モラル編）」に関する研究に取り組み、また、この教材を用いた学習指導案とプリントを作成し、授業を実践することにした。

### 2 「SNSノート（情報モラル編）」の概要

#### (1) 教材について

本教材は、小学1年生～高校3年生を対象とし、「カード教材」を取り入れて児童・生徒自身らが話し合いを通じて学んでいく教材である。発達段階に応じて、様々なテーマが用意されており、児童・生徒たちは教材を通してインターネットの特性を理解するだけでなく、人による認識の違いに気づき、より適切なSNS、ネットとの関わり方について当事者意識を持って考えを深める内容となっている。

もともとは2017年に東京都教育委員会とL I N E株式会社が共同開発した「SNS東京ノート」からスタートしており、この教材のエッセンスを取り入れたものが本教材となっている。また、2019年2月には長崎県教育委員会とL I N E株式会社が情報モラル教育教材「SNSノート・ながさき」を共同開発するなど、少しずつ広がりを見せている。

#### (2) 内容一覧

学習対象が中学生・高校生に該当しているテーマを以下に挙げる。

テーマ	中学校	高等学校
SNSからわかることは	●	
マンガをSNSにアップすると	●	
夜遅くまでのグループトーク	●	
写真を公開する前に	●	●
自分と相手とのちがい②	●	●

SNSで売ったり買ったり	●	●
新しいアプリについて考えてみよう	●	●
こんなつもりじゃなかったのに	●	●
災害時のSNS活用		●
ネットで体験した嫌なこと		●
カード教材をつくってみよう		●

### 3 ネット利用実態状況調査

「SNSノート」を使って授業を行う2クラスの生徒に対して、標記の調査を行った。その調査結果を以下にまとめた。

#### (1) ネットサービスの利用状況

LINE, Twitter, Facebook, Instagram, YouTube の利用頻度については以下の通りである。

- ① わからない    ② 利用していない    ③ 1か月に1回以上利用する  
 ④ 1週間に1回以上利用する    ⑤ 1日1回以上利用する  
 ⑥ 1日10回以上利用する    ⑦ 1日20回以上利用する

ネットサービス	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
LINE	1.4%	0.0%	0.0%	11.4%	30.0%	34.3%	22.9%
Twitter	1.4%	38.6%	4.3%	5.7%	31.4%	10.0%	8.6%
Facebook	2.9%	88.6%	7.1%	1.4%	0.0%	0.0%	0.0%
Instagram	0.0%	22.9%	1.4%	4.3%	21.4%	30.0%	20.0%
YouTube	1.4%	0.0%	0.0%	15.7%	55.7%	12.9%	14.3%

Facebook 以外の各ネットサービスについては1日に1回以上利用する生徒が半数以上になっており、LINEとYouTubeについては利用頻度がかかなり高いことがわかった。高校生にとってスマートフォンを利用してネットサービスにアクセスすることが日常化されていることがわかる。LINEについては相手とのトークなどで1回利用し始めると、しばらくは続いていくのですぐにはやめることができず、また、YouTubeによる動画視聴となると、長時間化することが考えられる。学校を下校し、帰宅してもネットとの関わりが続いている状況がわかる。

#### (2) SNSでのプライバシー情報の公開状況

プライバシー情報の公開項目	はい	いいえ	その他
プロフィールに本名を使っている。	51.4%	47.1%	1.5%
プロフィールに本名がわかるようなニックネームを使っている。	57.1%	42.9%	
学校名や部活の名前を公開している	41.4%	57.1%	1.5%
メールアドレスやLINEのIDを公開している	1.4%	98.6%	
住んでいる市や町の名前を公開している。	2.9%	95.7%	1.4%
プロフィール画像に自分の顔写真を使っている。	40.0%	60.0%	

※無回答または回答内容が不明確なものについてはその他にした。

この結果から、個人の氏名に関する情報については半数以上の生徒が公開していることがわかる。「氏名」という情報に対してあまりハードルが高くないのだと感じた。学校名・部活動名・自分の顔写真などの情報については生徒によって抵抗感があるためか、「はい」と「いいえ」の回答比率がどちらもほぼ4：6になっていた。メールアドレスやLINEのID、住んでいる市や町の名前については、ダイレクトに接触される恐れがあるためか、ほとんどの回答で「いいえ」を選択していた。

(3) ネットサービスの利用に対する意識（授業実施前）

各質問項目に対して次の4段階で回答させ、結果を以下にまとめた。なお、上記①～⑩の質問については授業実施後にも行い、変化を見ることにする。

A：とてもあてはまる

B：ややあてはまる

C：あまりあてはまらない

D：まったくあてはまらない

質問項目	A	B	C	D
①あなたはネットを安全に利用できていると思いますか。	38.6%	41.4%	17.1%	2.9%
②自分が今後、ネット上でトラブルにあうかもしれない。	5.7%	27.1%	58.6%	8.6%
③自分のネットの使い方を見直さなければならない。	15.7%	38.6%	38.6%	7.1%
④ネット上の情報はすぐに広がって、なかなか消すことができない。	54.3%	20.0%	11.4%	14.3%
⑤友達とのトークの際に自分の言葉が相手に正しく理解してもらえるように努めている。	65.7%	31.4%	2.9%	0.0%
⑥「自分よっての嫌な言葉」と「相手にとっての嫌な言葉」は同じではないと思う。	47.1%	27.1%	14.4%	11.4%
⑦相手に伝えたい言葉を文字で表現しても感情までは伝わらない。	37.1%	41.4%	18.6%	2.9%
⑧自分が公開してもよいと思う写真は、他の人も公開してもよいと感じている。	4.3%	10.0%	37.1%	48.6%
⑨自分が公開してもよいと思う写真を公開しても、誰も傷つけないと思う。	8.6%	5.7%	27.1%	58.6%
⑩ネットに公開した写真からわかる情報量は多いと思う。	64.3%	31.4%	1.4%	2.9%

#### 4 授業の実施

私が担当する1年生2クラスで「SNSノート」を活用して実際に授業を行った。

(1) 実施日

11月14日(木)・18日(月)

(2) 対象クラス

103HR・104HR

(3) 主題

カードで学ぼう！情報発信

(4) SNSノートとの関連

中学校・高等学校対象の「写真を公開する前に」と「自分と相手とのちがい②」の2つを活用した。

(5) 準備物

授業スライド、ワークシート、カード、リフレクションシート

(6) 指導案

次のページを参照していただきたい。

なお、この指導案は「SNSノート」の活用の手引きを参考にしながら作成した。

(7) 授業の様子(104HR)



5 学習指導案

( 情 報 ) 科 ( 社会と情報 ) 学 習 指 導 案						
実施日	令和元年11月 日 ( ) 第 時限					
学 級	1年 組	教 室	教室	指 導 者	谷脇 翔	
単 元	第1章 情報社会		教科書	高校 社会と情報 (実教出版)		
指 導 目 標	1 情報の特徴を理解させる。 2 情報社会がもたらした生活やビジネスの変化について理解させる。 3 インターネットの特質と個人の責任、心構えなどについて理解させる。 4 情報の特性や相手の状況を考慮したメディアの選択について理解させる。		指 導 計 画	1 情報と情報社会 ……0.5時間 2 社会の変化と個人の責任 ……1時間 (本時) 3 情報社会の問題 ……0.5時間 4 個人情報とその保護 ……0.5時間 5 メディアとその特徴 ……0.5時間 6 メディアリテラシー ……0.5時間 S コンピュータの発達 ……0.5時間 S コンピュータの構成 ……0.5時間		
	主 題	カードで学ぼう！情報発信				
目 標	1 カードを使って、自分で考えたり、グループの人たちと意見を共有したりすることで正しい情報発信について理解させる。 2 写真の公開におけるネットの特性を理解させる。 3 同じ言葉でも、人によって感じ方が違う言葉があることを理解させる。					
課 題	なし					
本 時 の 指 導 過 程	学 習 活 動		時間	指 導 上 の 留 意 点	資料・教具・評価の観点等	
	導 入	本時の目標を確認する。		5	・本時の目標を明確に持たせる。	・プロジェクター ・パソコン
	展 開	1 写真を公開する前に (1) 5枚のカードを見て、ネットに公開しても問題がないと思う順に並べる。 (2) グループで共有する。 (3) クラスで共有する。 (4) ネットの特性を考える。		20	・写真を見て気付いたことをワークシートに書かせる。 ・新しい発見があればワークシートに書かせる。 ・一番問題があると思うカードが生徒によって異なることを理解させる。	・プロジェクター ・パソコン ・カード教材 ・ワークシート 【評価規準】 ○写真の公開におけるネットの特性を理解できたか。 <知識・理解> 【評価方法】 ○リフレクションシート
		2 自分と相手との違い (1) 5枚のカードを見て、友達から言われて嫌だなと感じる言葉を順に並べる。 (2) グループで共有する。 (3) クラスで共有する。 (4) 感情の伝わり方 ア 直接伝える場合 イ 文字だけで伝える場合		20	・一番嫌だと感じた理由を書かせる。 ・新しい発見があればワークシートに書かせる。 ・一番嫌だと思うカードが生徒によって異なることを理解させる。 ・言葉のもつ「感情」が伝わらないと相手に誤解されることを理解させる。	・プロジェクター ・パソコン ・カード教材 ・ワークシート 【評価規準】 ○同じ言葉でも、人によって感じ方が違う言葉があることを理解できたか。 <思考・判断・表現> 【評価方法】 ○リフレクションシート
	整 理	本時のまとめをする。		5	・本時の学習内容を再確認させる。	・プロジェクター ・パソコン
備 考	普通科 生徒数 名					

## 6 リフレクションシート

授業実施後に配布し、「授業に関する振り返り」、「ネットサービスの利用に対する意識」（授業実施後）について回答してもらい、授業の感想も書かせて翌日に提出させた。

### (1) 授業に関する振り返り

各質問項目に対して次の4段階で回答させ、結果を以下にまとめる。

A：とてもあてはまる

B：ややあてはまる

C：あまりあてはまらない

D：まったくあてはまらない

質問項目	A	B	A+B	C	D
今日の授業はわかりやすかったですか。	75.8%	22.6%	98.4%	1.6%	0.0%
カードを使って情報発信について考えることができましたか。	83.9%	12.9%	96.8%	3.2%	0.0%
積極的に自分の考えを発表することができましたか。	38.7%	45.2%	83.9%	14.5%	1.6%
グループで活動する際、話しやすかったですか。	50.0%	46.8%	96.8%	1.6%	1.6%
授業を通して、情報発信について理解することができましたか。	79.0%	21.0%	100%	0.0%	0.0%
新しい気付きはありましたか。	58.1%	40.3%	98.4%	1.6%	0.0%

ほとんどの質問項目に対する回答が「とてもあてはまる」または「ややあてはまる」であったので、意欲的に授業に臨み、自分自身で情報発信について考えることができたのではないかと思う。

### (2) 「ネットサービスの利用に対する意識」（授業実施後）

質問項目	A	B	C	D
①あなたはネットを安全に利用できていると思いますか。	40.3%	45.2%	14.5%	0.0%
②自分が今後、ネット上でトラブルにあうかもしれない。	14.5%	45.2%	37.1%	3.2%
③自分のネットの使い方を見直さなければならない。	29.0%	45.2%	24.2%	1.6%
④ネット上の情報はすぐに広がって、なかなか消すことができない。	75.8%	19.4%	4.8%	0.0%
⑤友達とのトークの際に自分の言葉が相手に正しく理解してもらえるように努めている。	50.0%	45.2%	4.8%	0.0%
⑥「自分よっての嫌な言葉」と「相手にとっての嫌な言葉」は同じではないと思う。	56.5%	29.0%	4.8%	9.7%
⑦相手に伝えたい言葉を文字で表現しても感情までは伝わらない。	53.2%	41.9%	3.2%	1.6%

⑧自分が公開してもよいと思う写真は、他の人も公開してもよいと感じている。	11.3%	9.7%	38.7%	40.3%
⑨自分が公開してもよいと思う写真を公開しても、誰も傷つけないと思う。	14.5%	9.7%	29.0%	46.8%
⑩ネットに公開した写真からわかる情報量は多いと思う。	75.8%	19.4%	4.8%	0.0%

## 7 「ネットサービスの利用に対する意識」の変化

### (1) 授業実施前と実施後での回答率比較

	前				後			
	A	B	C	D	A	B	C	D
①	38.6%	41.4%	17.1%	2.9%	40.3%	45.2%	14.5%	0.0%
②	5.7%	27.1%	58.6%	8.6%	14.5%	<u>45.2%</u>	<u>37.1%</u>	3.2%
③	15.7%	38.6%	38.6%	7.1%	<u>29.0%</u>	<u>45.2%</u>	24.2%	1.6%
④	54.3%	20.0%	11.4%	14.3%	<u>75.8%</u>	19.4%	<u>4.8%</u>	<u>0.0%</u>
⑤	65.7%	31.4%	2.9%	0.0%	<u>50.0%</u>	<u>45.2%</u>	4.8%	0.0%
⑥	47.1%	27.1%	14.3%	11.4%	56.5%	29.0%	4.8%	9.7%
⑦	37.1%	41.4%	<u>18.6%</u>	2.9%	<u>53.2%</u>	41.9%	<u>3.2%</u>	1.6%
⑧	4.3%	10.0%	37.1%	48.6%	11.3%	9.7%	38.7%	40.3%
⑨	8.6%	5.7%	27.1%	58.6%	14.5%	9.7%	29.0%	<u>46.8%</u>
⑩	64.3%	31.4%	1.4%	2.9%	75.8%	19.4%	4.8%	0.0%

### (2) 回答結果を踏まえた分析

- ・自分が今後、ネット上でトラブルにあうかもしれない。[②]  
「ややあてはまる」と「あまりあてはまらない」の回答に大きく変化が表れた。ネット上でのトラブルと無縁であると感じていた生徒たちがおそらく自分のこととして考えることができたことによって、回答状況に変化が出たのではないかと考える。
- ・自分のネットの使い方を見直さなければならない。[③]  
「とてもあてはまる」と「ややあてはまる」と回答した割合の合計が実施前後で約20%増加している。質問②に関連して、ネット上でトラブルに合うかもしれないとの認識が自らのネットの使い方を考えるきっかけになったのではないかと推測する。
- ・ネット上の情報はすぐに広がって、なかなか消すことができない。[④]  
「とてもあてはまる」と回答した割合が実施前後で約20%増加している。また、実施前に「あまりあてはまらない」または「まったくあてはまらない」を回答した割合の合計が25.7%だったのに対して、実施後は4.8%と大きく減少しており、「まったくあてはまらない」と回答した生徒は1人もいなかった。「一度公開した情報を消すことは難しい」ということが生徒たちは確実に理解できているのだと思う。

- ・友達とのトークの際に自分の言葉が相手に正しく理解してもらえるように努めている。〔⑤〕

「とてもあてはまる」と回答した割合が実施前後で 15.7%減少し、「ややあてはまる」と回答した割合が実施前後で 13.8%増加していた。ある程度は自信を持って相手に対して誤解のないように正しく言葉を伝えていたと思っていたが、「本当に正しく伝えることができているのだろうか」と深く考えた結果によるものではないかと考える。

- ・相手に伝えたい言葉を文字で表現しても感情までは伝わらない。〔⑦〕

「とてもあてはまる」と回答した割合が実施前後で 16.1%増加し、「あまりあてはまらない」と回答した割合が実施前後で 15.4%減少していた。授業中に伝えたことが生徒たちの中にしっかりと浸透したのだと思う。

- ・自分が公開してもよいと思う写真を公開しても、誰も傷つけないと思う。〔⑨〕

「まったくあてはまらない」と回答した割合が実施前後で11.8%減少した。この変化について、もう少し考えるためにクラスごとで回答状況を分析した。すると、あるクラスは実施前後での変化がほぼないが、もう一方のクラスで実施前後で回答率が減少していた。このクラスの生徒たちに、こちらが伝えたい内容が正しく伝わっていない可能性があり、改善が必要であると感じた。

## 8 生徒たちの言葉の捉え方について

授業の展開部分の2つ目で「自分と相手との違い」について、5枚の言葉カードを用いながら生徒たちに考えてもらった。その際、授業中に5枚のカードをどのように並べたかワークシートに書かせていた。ワークシートを回収して集計した結果、以下のような結果となった。

「嫌である」 順番	① まじめ	② おとなしい	③ 一生懸命	④ 個性的	⑤ マイペース
1 番目	13.6%	13.6%	5.1%	20.3%	47.5%
5 番目	1.7%	5.1%	67.8%	10.2%	15.3%

この結果より、半数近い生徒が「マイペース」という言葉が一番嫌であると回答していることがわかる。ワークシートにある理由を見てみると、

- ・自己中心的な行動をしていると遠回しに言われているように思うから。
- ・時間にルーズだと言い換えることができ、少し嫌な気分になる。
- ・「遅い」と思われているように感じるから。
- ・「マイペース」＝「自我が強い」
- ・言い方によって変わるけど、ちょっとバカにされていそうな感じがする。

など、ネガティブな意見が多く見られた。

一方で、「一生懸命」という言葉が一番嫌であると回答したのは5.1%と最も少なく、嫌である順番が5番目であると回答したのは67.8%と全体の3分の2を占めた。

また、組み合わせ別で見ると、「嫌である」順番で1番目を「マイペース」、5番目を「一生懸命」と回答している生徒は22人であった。逆に1番目を「一生懸命」、5

番目を「マイペース」と回答している生徒が2人いた。同じ言葉でも捉え方が全く逆であるということは、この22人と2人は言葉の捉え方の違いで言葉が思いの通りに正しく伝わらない可能性があり、トラブルが起きることも想定される。同じ言葉でも、人によって感じ方が違うということがよくわかる結果ではないだろうか。

## 9 まとめ

今回研究を行うにあたって授業を実践してみたが、生徒たちは活動的に取り組めており、楽しそうに授業に臨むことができていた。普段の情報の授業ではこのようなアクティブな授業が残念ながらできていないわけではない。生徒の感想の中に「こういう班活動はあまりやったことがなく、新鮮な感じでした。班で話し合うことで、それぞれの意見は違って、みんな感じ方は違うんだと実感しました。」と書いてある生徒がいた。班活動を通して、自分の考えと他者の考えが違うことや1枚の写真を見ても見るべき視点がそれぞれで異なることが理解できたのではないかと思う。授業においては2つのテーマを取り入れて実践したが、他のテーマについても実践してみたいと感じた。カードを用いた班活動を通して生徒に主体的に取り組ませ、班の人との対話を通して情報モラルに関する深い学びにつなげていくことができるようにしていきたい。

情報発信の仕方を学ぶことは情報モラルについて学ぶことにつながっているが、情報モラルを指導するときは決まって教員が生徒に「こういうことはしてはならない」と教えることが多いと思う。しかし本研究を進める中で、生徒たちにSNSをはじめとするネット上の様々な問題を例示するだけでなく、自分のこととして認識させることが大切であると思う。また、問題に対してどのように対応すればよいかを生徒同士で考え合う活動に取り組んだり、生徒自身が普段から常に考え続けていく必要があると感じた。

本研究では「SNSノート」の教材研究、「SNSノート」を活用した授業実践、ネット利用に関するアンケート調査と授業前後での意識調査など、多くのことに取り組むことができた。この研究の成果や改善点を今後の授業にフィードバックできるようにしていきたい。情報モラル教育は「情報社会に参画する態度」の育成の柱であると思う。「情報社会に参加する」だけでなく「情報社会に参画する」姿勢を持つことができる生徒の育成に今後も努めていきたい。

## 【参考文献】

- [1] 『SNSノート情報モラル編』，LINE株式会社，2018年
- [2] 『SNSノート情報モラル編 活用の手引き』，LINE株式会社，2018年
- [3] 『青少年のネット利用実態把握を目的とした調査 平成30年度最終報告書』，LINE株式会社，2019年